

橋詰市長と
市政談義



平成20年10月17日夜、盛会裏に開催された(座談会、懇親会)



市長に質問する出席者

公民館講座 「橋詰市長を迎えて」に参加して
東京での長いサラリーマン生活を送り、定年を機にUターンして三年余り、帰郷当時商店街の体をなさない後免町を目の当たりにして、寂しさを禁じ得なかった。活性化策の一つとして、物部川の土手を県外にも知られるような「桜の名所」に出来ないだろうかと思案した。
都市と地方の格差を実感している今回の公民館講座「橋詰市長を迎えて」の参加者が六十七名と聞き、住民の市政への関心

の高さが強く感じられた。漠然と南国市いや高知県は活気がない、これは地方共通の問題ではあるが、各地方とも有効な良い処方箋を見つけないに苦勞している。現状を追認し、それを楽しみながら生活せざるをえないかなと考えていた。
今回の公民館講座に参加し、改めて南国市の課題が具体的に見えた気がする。今後は市政に対し、市民の一人としてより関心を持つて参加したいと考えた次第である。国政においても地方の意見・実態が中央に届かないと言われているが、市民の民意が直接市長に届く非常に良い企画だった。
参加者からも意義ある質問がなされ、市長も熱心に丁寧に説明されていた。また市長は市民との協同作業として 文化遺産の保護 健康作り 環境問題に取り組む意向を説明されていた。活字から得られる知識に比べ、市政がより身近に感じられ、今後ともこのような企画の継続を強く願いたい。
坂東和弘さん寄稿(包末)

楽しかった岩村の集い



あけぼの保育所園児の歌と踊り

この度、敬老会にお招き頂き、約八十名の笑顔が岩村ふれあいセンター一杯に笑いと拍手と感動の音が溢れて歳を忘れ寂しさを忘れて、約三時間の楽しい若返りの時を頂きました。
保育園児の歌と踊り、小学生の朗読、若返る体操、3B体操、日本舞踊、マジックショウ、剣詩舞と心和む演技から玄人の芸披露の息もつかせぬ展開に目を